

北区きらりと光るものづくり顕彰



作業風景

きらめき企業部門

有限会社岩井精機製作所

所在地 東京都北区浮間 1-7-3

電話 03-3966-1433

ホームページ <http://iwai-seiki.co.jp>

受賞の概要

(有)岩井精機製作所は1950年の創業当初から資材の結束に使われる帯鉄の引締機を製作しており、その傍らで切削加工の注文も受けていました。バンド結束機は戦後になって国内生産されるようになり、同社はその草分けで実用新案を出願したこともあります。

現社長の岩井大輔さんは3代目で、アメリカの大学に留学していましたが、家業の価値に気がつき、大学卒業後、帰国と同時に同社に入社しました。家業を引き継いだのはリーマンショック後の厳しい時期でしたが、現在は帯鉄引締機をはじめ、引締機のノウハウを活かした部品加工の受注を積極的に行っています。意欲的な効率化の提案などにより、大手メーカーの設計部などからも相談が来るようになっていきます。

今後は、後継者に家業の承継を動機づけられるような盤石の経営基盤を持った会社になりたいとのことです。



DMG 森精機 DuraVertical 5060



DMG 森精機 NLX1500

北区きらりと光るものづくり顕彰



工場内観

きらめき企業部門

興亜紙業株式会社

所在地 東京都北区赤羽北 1-16-3

電話 03-3907-0561

ホームページ www.koa-sigyo.co.jp

受賞の概要

興亜紙業(株)は1941年に品川区大崎で創業し、1946年から北区赤羽の現在地で操業しています。1955年に国産第1号コルゲートマシンを新設し、現在では都内唯一の外装段ボールメーカーです。

同社は創業時から各種の段ボール箱の製作を始め、加工食品向けを中心にガラス、雑貨及び物流関連といった業界に段ボール箱の販売先を拡げています。段ボールは典型的な地域産業であるため、小回りを利かせ、大手メーカーや地方企業では応じにくい、首都圏にある多品種少量、短納期の需要に対応して業界でのポジションを築きました。宅配便の発達や、新型コロナウイルス感染拡大による巣ごもり需要の増加などの影響で通販向けに様々な箱が求められており、寸法、材質、印刷及び形状などを工夫して顧客の要請に応じています。

近年では段ボール製品の新しい分野を拓くため、これまで培ったノウハウを活かして災害対策用の簡易ベッドやパーティションを製造供給しています。



平岡社長（前列中央）と社員の皆様



平岡社長

北区きらりと光るものづくり顕彰



新製品

きらめき企業部門

株式会社テイ製作所

所在地 東京都北区浮間 2-17-17 サクラビル

電話 03-3966-8601

ホームページ <https://www.teiseisaku.co.jp/>

受賞の概要

(株)テイ製作所は1992年の創業で、当初は封筒や帳票、カラオケの歌本などに使われる薄紙を中心とした抜型製造を行っていました。

家族の介護のため廃業を考えた時期もありましたが、娘である田中和江さんが家業を継ぐことを決め、製図と配達、営業に励みました。薄紙の需要が減る中で設計部門を強化し、販売促進用のPOPや什器などに使われる厚紙の抜型受注に努め、他社では製作が難しい強靱ボード(PASCO)の製作注文を受けるようになりました。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のための在宅勤務用段ボール机やパーテーション、PCR検査用の全周シールドボックスに加え、デザイン性とPASCOの魅力を打ち出して他社と共同開発した「Baglike」などの商品も考案しています。

同社は業務内容を拡大するとともに、より良い会社づくりのための人材育成にも力を入れており、経営方針を全社員で作成し毎年発表しています。現社長は、今後も顧客の人生やビジネスを豊かにする商品開発に取り組んでいきたいと語っています。

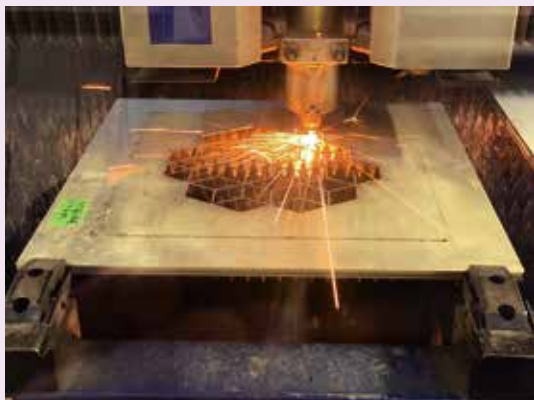


田中 和江社長



型製作

北区きらりと光るものづくり顕彰



レーザー加工

きらめき企業部門

都ステンレス工業株式会社

所在地 東京都北区浮間 4-21-5

電話 03-3965-6611

ホームページ <https://www.miyakost.co.jp/>

受賞の概要

都ステンレス工業(株)は1966年の創業で当初は材料販売を行っていましたが、1968年頃から製缶加工も手掛けるようになり、一般的な製缶品の他に工業用連続炉などを製作するようになりました。

現社長の小森谷真一さんは2代目で、家業に就いたのを機に同社初のレーザー加工機の導入を実現しました。このレーザー加工機の導入は受注拡大、耐熱合金・耐食合金等の特殊合金販売の受注に繋がりました。

工業用連続炉の加工は、現在同社を代表する加工技術となっています。連続炉の耐久性は溶接の良否が大きく左右します。工業用連続炉に使われている特殊合金は通常のステンレスに比べてニッケルの含有率が高く、高度な技術や独特のノウハウが揃わないと溶接の品質は保たれません。特殊合金を高品質に溶接して提供できる企業は限られていることから、同社の受注は増加傾向にあります。

現社長は技能や技術ばかりではなく、財務の安定性や管理体制の充実を図り会社の信用を高めたいと語っています。



社内モニター



小森谷社長



社屋外観

北区きらりと光るものづくり顕彰



きらめきの技人部門

渡辺 欣信 株式会社渡辺工業所

所在地 東京都北区栄町 10-13

電話 03-3911-8802

ホームページ www.watanabe-kougyousho.co.jp

受賞の概要

渡辺欣信さんが経営する(株)渡辺工業所は大正5年創業で、渡辺さんは3代目です。1983年に大学の機械工学科を卒業し、同社に入社しました。NC旋盤という、その当時は活用次第で会社の命運が決まるほどの高価な設備の導入が入社のきっかけでした。NC旋盤の持つ可能性を探るため、汎用機の仕事の方法に捕らわれないよう技能の習熟に努めました。この努力が発想を豊かにしたと語っています。

渡辺さんはNC.MC工作機械の他、汎用旋盤やフライス盤、研削盤、また鋸盤も多用してさまざまな注文に応えています。64チタンを使った厚さ1mmのフロートの先端部、缶ビールの蓋をかしめるアタッチメントの製作といった少々変わった注文もあります。図面がなくとも、それが動作している様子や加工の道筋のイメージが湧くものであれば注文を受けています。自分の技能が世の中に役に立つ、価値があると思える時がものづくりに関わる者の冥利に尽きることです。



製作物1



製作物2